THE JOMO SHIMBUN　昭和58年（1983年）11月17日（木曜日）　第31903号（日刊）

上毛新聞

発行所（〒371）前橋市古市町1−50−21
上毛新聞社
電話、前橋(0272)51−4341(代表)
支局、(伊勢崎)4345・1344
(桐生・広告)5079
(太田)4347
(館林)4345・1344
(製作)4345・1344(発送)4346

© 上毛新聞社　1983

防災へ共同ヘリ基地構想

県都サミット

食糧や医薬品輸送
あす栃木で合同訓練

県都サミットは加盟五都市で発足、昨年十月、日に浦和（水戸）、福山道保（宇都宮）、中川昭四郎（前橋）、原忠三（甲府）、川代賢（千葉・助役）の五都市の防災訓練の実施を協議した。

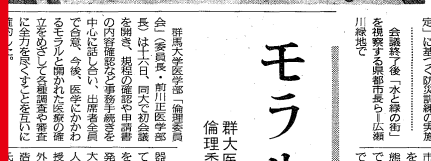
この日の会議には、藤井精六郎が出席、まず横井、甲府両市の加盟を承認した。続いて、災害時に都市間で、物資の供給や救出部隊の応援を協議する「災害時協定」に基づく防災訓練の実施について、要項を協議した。

訓練は十七日午後一時四十分、宇都宮市内で震度6の地震が発生したとの想定で開始。県庁内に「災害対策本部」を設置、情報の収集と伝達、救出・救護、医療活動などを行う。連絡を受けた各市が、どんな物資をどのような方法で、どれだけ輸送するかを決定、栃木県庁に集まる。

午後二時四十分、宇都宮市から「被害が甚大で多数の負傷者が発生」との連絡があり、ヘリコプターの緊急輸送要請を受けた栃木県が、各市にも「二都市だけでは対応できない」と応援を要請、各市から「二都市だけで推進できる態勢にはない」と意見が出て、机上訓練の方向に傾斜した。

訓練終了後、各市の防災担当者が集まり、今後の防災訓練の進め方などについて話し合われた。

県都サミットの防災訓練を終えて記念撮影する前橋市長の中川昭四郎氏（中央）ら


会議終了後「水と緑の街」を視察する県都市長ら＝広瀬川緑地で

モラル確立に全力

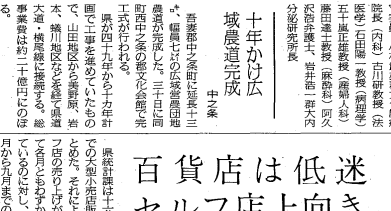
群大医学部倫理委員会　申請規定など検討

群馬大医学部「倫理委員会」（委員長・前川正医学部長）は十六日、同大で初会議を開き、規定の審議や申請書の受理手続きなどを決めた。

同委員会は、体外受精や臓器移植などが社会問題になっているのを受け、医の倫理をより確実なものにしようと発足した。橋本メンバーは同大医学部長を含む教授ら十人で、臨床・基礎医学系の教授のほか学識経験者として弁護士や僧侶を加えた。

委員長には外科第一講座の小林博教授が選ばれた。委員会は「審査が急を要する場合も出てくるだろう」として、委員長に一任することを決めた。

前川委員長は「審査が急を要する場合も出てくるだろう」として、委員長に一任することを決めた。


委員会の規定内容を説明する前川委員長（右端）ら

組織あげ選挙浄化

推進委の設置へ

群馬ブロック協議会

県内十二の青年会議所で構成する日本青年会議所群馬ブロック協議会（会頭・倉林清人）は十六日、各青年会議所の会員全員で「選挙浄化推進運動」に向けて組織を固める。具体的な推進委の設置へ、今後、各青年会議所で、会員の中から選挙浄化委員を選出、委員会を開き、選挙浄化推進運動の具体的な活動方針を決める。

来春から学校給食

給食センター来月完成

片品村

建設中の片品小近くに建設中の給食センター

鎌田の片品小近くに建設中で、鉄骨造り二部二階建て五百八十二平方メートル、同じく二階建て五百六十二平方メートル、同センター内に、給食調理室を始め、給食用の車庫などを備えた給食センターは同村の校給食を担当する。

村学校給食センターは同村の小学校と中学校の児童、生徒、教職員合わせて約千百人分の給食を作る。

世界平和の危機強調

福田元首相　OBサミット始まる

【ウィーン十六日、深町一郎】福田元首相の呼び掛けによる「第一回OBサミット」（元閣僚、首脳らの日本の都合で出席）が十六日午前九時（日本時間同日午後五時）過ぎからウィーンの市内のホーフブルク旧王宮で始まり、三日間にわたる本格的な討議に入った。

議長役のウルバニイム国連事務総長の開会宣言、地元オーストリアの歓迎の言葉を述べた後、福田元首相が「軍事面と経済面では世界は破滅に向かっている。世界の賢人の一層の知恵を絞り、危機を乗り切ろう」と力強くあいさつした。

会議にはシュミット前西独首相、キャラハン前英国首相ら日本の都合で出席できなかったが、ルーマニアなどの共産圏を含む二十二カ国の代表が参加したのは特筆される。会議に先立ってインタビューに応じた福田元首相も「平和について世界中で心配しているんだ。いい知恵を出してもらって平和を維持しなければ」と冒頭いっぱい、日本人の提唱による世界レベルの会議は歴史的に初めてのケースだ。今後最大の危機として直面しているウィーンは過日氷点下に下がり、この日は朝寒の感さえあった。